

企業を元気に、情熱系  経営マガジン

2020.4

VOL.
55

● 特集

株式会社新川製作所 / 有限会社関西貿易

従業員満足度向上で強い企業に

- 「継ぐ」極意 ⑤
自社開発のIoTシステムを掲げて
事業の転換期に新風を
株式会社ワイズ・ラブ 内橋 由利香さん
- 堺のすご腕 ② ③
樹脂成形の技を究めて最終製品づくりへ
和田精工株式会社
- SAKAIの傑作 ①
安全性と作業効率を徹底追求した
プロ向け作業工具
株式会社スーパーツール

「絶対に放ってはおかない」 丁寧な人づくりで 若手が定着

株式会社新川製作所
代表取締役 新川 浩

CASE 01

**相次ぐ若手従業員の退職に
会社を大きく変えることを決意**

企業を経営していく上で、顧客満足度を高めるのと同様に、従業員満足度を高めることの重要性が唱えられ始めています。「やり甲斐がある」「正当に評価される」といったことがモチベーションを高め、ひいては人材の定着につながったり生産性を上げたりしている例は少なくありません。従業員を大切にしたい組織作りによって、成長を続けている2社の取り組みをご紹介します。

主に、ネステイングラックやクロスサポーターといった物流機器を製造販売している新川製作所。溶接ロボットが火花を散らしている工場内には、あちらこちらで若い技術者たちの姿が目につきます。しかし、つい4年ほど前は若手の退職が相次ぎ、20〜30代前半の社員はゼロだったとか。どれだけ実績

があり、良い製品を送り出しているも、技術者が定着しない組織はダメだと危機感を抱いた新川浩社長が、2017年10月の社長就任後に真っ先に着手したのが、従業員がやり甲斐を持って働ける仕組み作りでした。

「大学を卒業して他社で9年間勤めた後に当社に入社し、最初にうちの強みを探してみたら、『約束を守る』という実直な風土でした。それはもちろん、確実に納期を守るということでもあり、当社への信用、信頼につながっていました。今も誇るべき信条・社是として大きく掲げています。しかし一方で、一人ひとりの職人の勘ややり方に任せた旧態依然とした現場では、若手は定着せず、このままでは企業としての発展が見込めないと、工場長に『5年をかけて、一緒に社風を変えよう』と訴えたのです」。

**従業員同士が関わり合う仕組みで
不安や不満を払拭**

会社としてのルール作りのスタートとして、まず制服を作り、会議室を整え、何より一番の大仕事は統一された作業手順書を作成することだったといえます。

「それまで教える人によって手順が異なり、部品の名前などの用語もバラバラでした。それをみんなで検討して、作業手順を統一する作業を行ったのです。そのプロセスは、ISO認証の取得プロセスと同じだと考え、思い切つてその取得も目指しました。そこで従業員同士の会話が生まれたのは良



導入時より溶接ロボットに携わってきた顧問と、勤続9年の技術主任。日々ものづくり技術の継承に励む。



溶接ロボットを操作する若手技術者



新川社長から大きな期待がかけられている若手社員たち

かつたですね。これにより誰もが悩まない、迷わない指針ができました」。

同時に新川社長は、それまで仕事への不安や不満から若手が辞めていっても、他の従業員は無関心だった状況を変えようと、お互いに関わり合う仕組みを2つ作ったのです。1つは、その月に頑張った人を全従業員で投票して決める「MVP制度」。投票するためには他の人にも関心を持たざるを得ないと、選ばれた受賞者は、自分の頑張りが仲間たちから評価される喜びを持つことができます。

そして2つ目は、若手社員と先輩が2人1組になってマンツーマンで指導する「パディ制度」。若手社員がその日の仕事の疑問や不安を持ったまま帰ることのないよう、仕事が終わった後に必ず、2人で終礼を行っています。「その時に大事なものは、インプットではなくアウトプットさせること、ただただ傾聴してやることも大切です」と新川社長。若手社



員には、幅広いスキルを持った多能工に育てたいと定期的に勉強会を開いたり、さまざまな現場を経験させたりしています。昨年10月に、同社として初めて特許を取得した技術も、そうした技術研修会で、当時入社2年目の社員が考えたアイデアも参考になったそうです。

こうした取り組みにより、その後入社した若手社員は、別の事情で退職した二人を除いて、離職者はなし。現在は10人の若手社員が活躍しています。

第2工場も始動 新たなフィールドへの進出を

1958年にパイプ製の脚立や運搬用輪

車の製造などで創業した同社は、その後、メッシュパレットなど物流機器の製造を手がけるようになりましたが、低価格な海外製品に押されたことから、まだ海外製品に対抗できるネスティングラックとクロスサポーターの2製品に特化したメーカーへ転換。現在のネット通販の急伸もあつて、安定した受注を獲得しています。強みは、素材の鉄鋼を大量にコイル買いし、肉厚を自社で指定するなど、高品質な製品を低価格で提供できることと、約50年前の発売当時から導入している溶接ロボットの豊富なノウハウです。

「若手も増え、この3月から第2工場が始動しました。これからは、物流機器にこだわらず、建設業界など新たな業界へも進出し

ていきたい」と新川社長。若手社員たちを見つめる兄貴のような温かい眼差しが印象的でした。

株式会社新川製作所

代表者名／代表取締役 新川浩
本社／堺市中区陶器北98-2
TEL／072-234-2261
設立／1958年創業 1968年設立
資本金／1,300万円
従業員数／20名
事業内容／クロスサポーター・ネスティングラックなど物流機器製造販売、各種鋼材・配管の加工・販売
<http://shinkawa-g.jp/>

ホスピタリティ マインドで 従業員の仕事への 満足度を高める

有限会社関西貿易

代表取締役 森 勲

CASE 02

副資材の輸出業からものづくりへ 人材育成の大切さを実感

関西貿易の事業の柱は2つ。一つは自動機などの生産設備の設計製作と、もう一つは車軸やギヤといった金属部品の熱処理・表面処理加工です。ものづくり企業でありながら「関西貿易」という社名なのは、創業当時の事業内容によるもの。元は堺市内の大手アウトドアスポーツメーカーの技術者だったと

いう森勲社長が、シンガポールに駐在していた折に、現地には研磨剤などの副資材のメーカーがなく、日本やドイツからの輸入に頼っていたことにビジネスチャンスを見出し、1996年に副資材の輸出業で創業しました。その後、かつての勤務先から声をかけられ、機械の設計・製作事業をスタートさせた森社長。「ものづくりが好きなことを再認識した」と語っています。

自社で製造を開始するにあたっては、当初60代のベテラン技術者を雇用してスタートしたものの、昔ながらの職人気質で、「得意先の要望に応える」という今では当然の認識を共有できなかったことから、若い人を一から育てていくことに方針転換したといいます。

「新卒も含めて若手社員を初めて採用したのは2008年。世の中はリーマンショックで景気の落ち込んでいる時でしたが、当社はその影響を受けなかったのも、逆にすばらしい人材を獲得できる幸運に恵まれました」。その時に採用した若手の社員たちが今、同社の主力となって活躍しています。

従業員一人ひとりが自分で考え、 行動できる組織づくりを

「御社の強みは？」という質問にすかさず「人材」と答えた森社長。平均年齢38歳という、ものづくり企業としては若い社員たちに、全従業員の約37%を占める女性たち、そして8人の外国人エンジニア・実習生という多様な人材が、得意先のさまざまな要望に応える強い現場力や瞬発力を発揮していると森社長は語っています。「女性は根気があると、ムダがない。ベトナム人の従業員は家族思いで勤勉です」。

機械の生産量は定だけども、人間はその人のモチベーション次第で生産力を上げることができる。これからのものづくり企業は、まず、会社が目指すべき方向を示し、そ



顧客からの要望を具体的に設計図に落とし込む



フルオートバンドソーで鋼材を切断



顧客の要望に応じて、小ロットでも打ち合わせから設計、製作、組立てまで一貫したものづくりを行っている。

れを実現するためにはどうするのかを社員一人ひとりが、自分の仕事として意識し、考えて動く組織でなければならぬと森社長は語っています。それがひいては、同社が経営理念として掲げる「すべてが幸せになるための会社づくり」につながるのだという考えです。

給与明細には手書きの「一筆箋」 年末には配偶者へ贈り物を

人づくりについては、昔の「見て覚えろ」ではなく、作業者ごとに教育計画を立て、PDCA(計画↓実行↓評価↓改善)で回すほか、社内検定制度を設けるなど、現場の実際の作業の中で人材を育成するシステムを確立させています。

このように、ホスピタリティマインド(おも



てなしの精神)で従業員が安心して働ける環境作りを担うのは人事総務課。「ものづくり企業は生産部門が重視されるけれど、こうした人事総務課の存在は重要です」と語る森社長自身もまたホスピタリティマインドにあふれていて驚かされました。

毎月、社長から手渡される給与明細の入った袋には、一人ひとりに宛てた社長の手紙が入っているほか、毎年年末には、社員の妻に向けてクリスマスカードと贈り物を届けられるそうです。「家族の理解があつてこそ、社員も頑張れるわけですから」。

今後は、大型テーマパークや大阪万博のバリエーションなどで当社の製品、技術が活かされれば、従業員にとってもモチベーションアップにつながるだろうと森社長。さらに、自社が育ててもらったように、自らベンチャー企業を発掘し、その成長を見守る事業も行ってみたいと語っています。ものづくりのDNAが息づく堺の企業であることの誇りを胸に、同じく他の堺のものづくり企業と二丸となつて、何かを生み出せたらという夢も熱く語っていました。

有限会社関西貿易

代表者名/代表取締役 森 勲
 本社/堺市中区土塔町2158-1
 TEL/072-230-3987
 設立/1996年設立
 資本金/300万円
 従業員数/46名(パート従業員を含む)
 事業内容/産業機器の設計・製作および
 改造メンテナンス、金属・鋼材・表面・熱処理などの各種加工、試作品設計・製作など
<http://kansaitrading.co.jp/>

「継ぐ」 極意

内橋 由利香さん

IoTという言葉がなかった時代から、モノがインターネットに繋がることで現場の業務を効率化する先進的なシステムの開発を受託中心に行ってきた株式会社ワイズ・ラブ。今年、設立25周年を迎えました。

「長くシステム開発に携わってきた経験値の高さから、提案の幅が広いことが強み」と語る内橋義人社長ですが、インターネットが隅々まで浸透しIoTも普及期を迎えた中で、従来の受託開発中心のモデルでは立ち行かなくなることに危機感を持ったそうです。

そのタイミングで飛び込んできたのが、東京のモバイル系IT企業でサービス企画に携わっていた由利香さんが関西に帰ってくるという話でした。「助けてくれ」と言われたんです」と由利香さん。それまで事業承継など全く頭になかったので、ひとまず前職の経験を活かせる別の会社で修業しながら、週に1度ワイズ・ラブに勤めることで考える時間を持ったそうです。

そこでの2年間で、経営者とは何かを学ぶと同時に、ワイズ・ラブが持っている開発力やサービスのすばらしさ、社員一人ひとりのモチベーションの高さに気づき、それらが承継されないのもつたないかと思つたと由利香さん。継ぐ覚悟を決めて、ワイズ・ラブで本格的に働くようになり、現在は、自社開発の「物品位置管理IoTサービスXeye（クロスアイ）」のプロジェクトを一手に担っています。

円滑な事業承継のコツについて、内橋社長は「自分の弱みを見せること」と語り、由利香さんは「後進に好かれておくこと（笑）」と話していました。小さい頃から由利香さんとのコミュニケーションを大切にしていたという内橋社長。期せずして、良好な事業承継のきっかけになったようです。

自社開発の IoTシステムを掲げて 事業の転換期に新風を

株式会社ワイズ・ラブ

堺市北区長曾根町3079-13 TEL.072-254-5109

代表者名 / 代表取締役 内橋 義人

設立 / 1995年設立

資本金 / 1,000万円

従業員数 / 13名

事業内容 / IoTシステム自社製品開発・販売、
現場系業務システム受託開発、組込制御システム受託開発

<https://www.yslab.co.jp/>

工場や倉庫など、あらゆる事業所で発生している探すムダをなくす「物品位置管理IoTサービスXeye（クロスアイ）」や、見つけたいものの位置を光って知らせる「光るタグ☆Vegaシリーズ」など、自社で開発したIoTサービスを課金制で提供するビジネスへと転換を図っている。



堺の伝統を未来へ。

堺市の伝統産業に従事する、若手職人を紹介します。

堺注染の次代を担う期待の新人職人たち

堺の伝統産業である堺注染を次代に継承するための人材育成として、堺注染和晒興業会と当センターが連携し、2018年に「堺注染職人養成道場」を実施しました。

道場での座学、実技研修を経て、現在、職人として各事業所で働いているのは6人。「堺注染への関心が高くてやる気のある人たちに来てもらい将来が楽しみだ」と先輩の職人さんたちも高く評価しています。



久保さん
(株式会社西川由染晒工場)

美術系の高校に通っていた時に染めの授業を受け、これを仕事にできたらと考えていました。家族から道場のことを教えてもらったのがきっかけで受講。研修が終わって入社した後は、壺人と呼ばれる染色を担当しています。最初は「ぼかし」がうまくできず、色が混ざり合う失敗も多かったが、それがうまくいった時にやり甲斐を感じました。糊の乗った手ぬぐいが重たくて運ぶのに苦労していたのも、いつの間にか平気で運べるように。今は、基本的な技術をしっかり習得することが目標です。



谷家さん
(株式会社西川由染晒工場)

今は板場という染色の前の工程を担当しています。道場に申し込んだのは、注染手ぬぐいと職人という生き方に興味があったからですが、注染の工程を知って、より興味を持ちました。実際に現場に入ると、良い物を作るにはどれほどの時間とお金がかかっているのかを再認識しました。職人として、毎日が良いことばかりではないですが、そうした日々を積み重ねて前進していきたいです。注染はぼかし染めなど難しいところがある魅力ですし、そこに取り組んでできた時は嬉しいですね。



菊池さん
(株式会社協和染晒工場)

小学生の頃から職人に憧れていました。大学で染色を学んだ後、通常の就職活動はせずに、京都などを巡りながら職人になれる道を探っていた時に、この道場の募集を知ったのです。今は染めと板場の両方を担当しています。ぼかし染めなど経験してこそわかる難しさがありますが、それが浪華本染めの良さだと思います。職人としてはまだまだこれからですが、それでも「次にはこれを」と与えられた型が前より難しいものになっていた時には、少しは成長したのかなど気づかされることがあります。



大北さん
(株式会社協和染晒工場)

13年間勤めていた会社を退職し、職探しをしていた時に道場のことを知りました。前の仕事では自分に何も残らなかったのも、今度は何か自分の身になるものがあると望んでいたのと、伝統を継承する仕事に興味があったので受講を決めました。当初は職人という仕事への憧れときれいな手ぬぐいが作れないという漠然とした思いで飛び込んだ道ですが、今は製品作りの一端を担っているという責任を感じます。職人として12年以上勤めた後、伝統工芸士の資格を取ることが目標です。



川村さん
(株式会社ナカニ)

堺市に住みながら知らなかった注染については、見学会に参加して面白そうだなと思っていました。糊に使用される海藻の独特の匂いに驚きましたが、不思議とそれを嫌だとは思いませんでした。ナカニはすべての工程のできる職人になるという方針なので、今は洗いや検品をしながら蛇腹に畳む「タタミ」という作業を担っていますが、ベテランの職人でさえ、日々同じようにはできない苦労をしているのを見て、逆にそこが注染の魅力だと感じています。まずは私の友人、知人からその魅力を伝えていきたいですね。



今井さん
(株式会社ナカニ)

関東出身ですが、結婚して子どもができてから関西へ。子どもが小学校に入学し、時間ができた時にちょうど、道場の募集記事を見つけました。注染は工場生産とは異なり、一枚一枚同じようにできないその難しさが悩むところであり、楽しいところだと思います。今は洗いやタタミを担当していますが、職人になってからは体力が付き、食べる量も増えました。休日は趣味のフラダンスや台湾語の習い事でリフレッシュしています。いつか自分でデザインした手ぬぐいを染めるのが夢です。

堺の伝統産業 浪華本染め(注染)が、国の伝統的工芸品に指定されました

堺の伝統産業の注染が、日用品であること、伝統的技術・技法であること、一定の地域で産地形成がなされていることなどの5要件を満たしたとして、昨年11月20日に経済産業大臣から「浪華本染め」として国の伝統的工芸品に指定されました。

～「浪華本染め(注染)」とは～ 浪華本染めは、明治時代に大阪で開発された日本固有の染色法。多彩な色を使ったぼかし染めなどが特徴。手ぬぐいやゆかたのほか、最近は日傘やアロハシャツ、コースターなどにも用途は広がっている。



[取材協力]

株式会社西川染晒工場

堺市中区 毛穴町 334 ☎ 072-271-0918

株式会社協和染晒工場

堺市中区 毛穴町 355-2 ☎ 072-271-0015

株式会社ナカニ

堺市中区 毛穴町 338-6 ☎ 072-271-1294

令和2年度 堺市の中小企業者向け支援事業のご紹介

堺市ものづくり支援課

○堺市ものづくり新事業チャレンジ支援補助金

新たなものづくりに必要な費用の一部を補助します。

■補助対象者

市内で引き続き1年以上事業を行っている中小企業

■補助内容

期間…1年 補助率…補助対象経費の1/2以内
補助上限額…500万円

■募集期間

2020年5月1日～31日(予定)

●問合せ先

堺市ものづくり支援課
TEL: 072-228-7534 FAX: 072-228-8816

堺市イノベーション投資促進室

○市税優遇制度(イノベーション投資促進条例)

市内の工場等の新增築、建替え等や、都市拠点(都心地域、中百舌鳥地域、泉ヶ丘地域)での本社等の事業所整備について、一定条件を満たす場合に市税を最長5年間軽減します。

<基幹産業の発展に向けた投資の促進>

■対象業種

製造業、情報通信業、研究所、高度物流施設

■対象地域

工業専用地域、工業地域、準工業地域

■軽減税目

固定資産税(家屋・償却資産)・都市計画税(家屋)・事業所税(資産割)

■優遇措置

投下固定資産額(土地を除く)1億円以上(大企業は10億円以上)の場合、1/2軽減
※成長産業分野の本社移転または研究所整備の場合、2/3軽減

<都市拠点を強化する投資の促進>

■対象となる投資

本社、研究所、事務所の整備

■対象地域

都心地域、中百舌鳥地域、泉ヶ丘地域

■軽減税目

固定資産税(家屋・償却資産)・都市計画税(家屋)・事業所税(資産割)

■優遇措置

投下固定資産額(土地を除く)10億円以上の場合、1/2軽減(本社・研究所の新設・拡充または市外からの移転の場合、は1億円以上)
※ただし、都市拠点の特性に応じて一定の要件を満たす場合、最大3/4軽減

○生産性向上特別措置法に基づく「先端設備等導入計画」の認定

中小企業者が労働生産性を向上させるため、堺市内の事業所において先端設備等(※)を導入する計画について、本市の認定を受け、一定の要件を満たす場合、以下の支援を受けることができます。
※先端設備等…機械及び装置、測定工具及び検査工具(電気又は電子を利用するものを含む)、器具及び備品、建物附属設備、ソフトウェア

■支援内容

・固定資産税の特例措置(要件を満たす場合、認定計画に基づき取得した先端設備等の固定資産税を3年間ゼロとする特例措置)
※2021年3月31日までに取得した資産に限ります。
・資金調達における信用保証協会の追加保証や保証枠の拡大
※詳しい要件等については、堺市HP「生産性向上特別措置法に基づく「先端設備等導入計画」の認定について」のページをご確認ください。

○堺市企業成長促進補助金

企業の本社や研究開発施設の整備、市内製造業が成長産業分野に挑戦する投資について、費用の一部を補助します。
※補助要件・補助内容等の詳細はお問い合わせください。

○都市拠点の業務集積を促進する補助金

都市拠点の特性に応じた事業所の立地を促進するため、都心地域は業務系機能、中百舌鳥地域はスタートアップやICT関連企業、泉ヶ丘地域は次世代ヘルスケア関連企業の各オフィス開設に係る賃料等を補助します。
※補助要件・補助内容等の詳細はお問い合わせください。

●問合せ先

堺市イノベーション投資促進室
TEL: 072-228-7629 FAX: 072-228-8816

堺市環境エネルギー課

○堺市スマートファクトリー・スマートオフィス導入支援事業補助金

(先着8件程度)

第三者の省エネルギー専門家による省エネルギー診断を受けていることを条件に、所定の省エネ設備(ボイラ、変圧器、コンプレッサ等)を1種類以上導入する際、導入費用の一部を支援します(LED照明・空調は補助対象外)。

■補助対象者

市内事業者(風俗営業等除く)及びリース事業者

■補助対象事業所

年間のエネルギー使用量が1,500kL未満である市内事業所

■補助対象事業・補助内容

補助対象経費(設備費)が30万円を超える事業であること。補助額は対象経費の1/3以内で削減要件及び補助上限額は以下のとおり。

事業所全体の削減要件(A,B,Cのいずれかを満たす事業)			補助上限額
A:エネルギー使用量	B:温室効果ガス削減量	C:最大需要電力	
5%以上	5t-CO ₂ 以上	5%以上	150万円
2.5%以上	2.5t-CO ₂ 以上	2.5%以上	100万円
1%以上	1t-CO ₂ 以上	1%以上	50万円

■申請期間

2020年4月1日～2020年12月4日(予定。ただし、予算額に達し次第、終了)
※ボイラの更新を考えている方は併せて「ボイラ・省エネアドバイザー派遣事業(無料)」をご検討ください。今お使いのボイラの運転効率や負荷率を計測し、運用改善や設備更新による省エネ効果を試算します(先着2件)。また、コンプレッサの更新を考えている方は併せて「空気圧縮機・省エネアドバイザー派遣事業(無料)」をご検討ください。今お使いのコンプレッサの負荷率等を計測し、運用改善や設備更新による省エネ効果を試算します。また、希望に応じて吐出圧力の調節などチューニングを実施します(先着6件)。

●問合せ先

堺市環境エネルギー課
TEL: 072-228-7548 FAX: 072-228-7063

堺市雇用推進課

○堺市女性雇用促進等職場環境整備支援事業補助金

女性の職域拡大や働きやすい職場づくりを推進するために、職場における労働環境の改善に取り組む市内中小企業等に対して整備費用の一部を補助します。

■対象者

次の3点を満たす企業等。①市内で1年以上事業を営み、常時雇用労働者数が300人以下であること ②堺市産業振興局雇用推進課が実施する、女性活躍推進のための事業(セミナー等)に参加した、又は参加を予定しているなど ③補助金交付申請年度に、補助事業を実施する事業所において、女性の常時雇用労働者数を10%以上増やす採用を行った若しくは採用を予定している又は翌年度の4月1日採用を予定していること

■補助金額

補助対象経費の1/2以内(上限額50万円)

■補助対象

①専ら労働者の使用に供するための女性用施設(トイレ、シャワールーム、更衣室、休憩室)の整備 ②女性の就労に際しての安全対策

■募集期間

2020年4月1日～2021年2月28日(予定。ただし、予算額に達し次第、終了)

○堺市障害者雇用貢献企業認定制度

市内中小企業における障害者雇用を促進するため、障害者雇用に積極的に取り組む企業を認定し、企業情報の発信や奨励金の交付などで支援します。認定には審査があります。

■対象者

市内に本社のある従業員300人以下の法人又は個人で、障害者の法定雇用率(2.2%以上)を満たし本市が別に定める条件に該当する企業

■支援措置

①堺市ホームページ等を活用した企業情報の発信 ②奨励金(要件に応じ1企業につき年間10万円～100万円)の交付 ③中小企業活力強化資金融資「雇用貢献企業支援資金」の保証料免除 ④堺市の総合評価落札方式における加点 ⑤障害者雇用管理に係る情報提供

■申請期間

2020年6月1日～2020年7月31日(予定)

○堺市多様な人材の活躍推進企業認定制度

認定企業のイメージアップや人材の確保・定着を図るとともに、市内企業等における「働き方改革」への取組促進を図るため、女性、若者、障害者、高齢者等多様な人材が活躍する市内中小企業等を認定し、職場環境整備等の先進的な取組の情報発信や奨励金の交付などで支援します。

■認定対象

次の2点を満たす企業等(法人・個人事業主)。
(1)市内で1年以上事業を営み、常時雇用労働者の数が300人以下であること (2)市が設定する認定項目について取り組み、多様な人材の活躍推進を行っている

■支援内容

1多様な人材の活躍推進企業として、本市のホームページその他の広報媒体を活用した企業情報の発信 2認定を受けた推進企業が行う人材採用に関する支援 3特別認定を受けた推進企業への奨励金の交付

■募集期間

2020年6月1日～2020年7月31日(予定)詳細は雇用推進課ホームページでご覧になれます。

●問合せ先

堺市雇用推進課
TEL: 072-228-7404 FAX: 072-228-8816

|(株)浪速工作所様、タバタ(株)様が、「第8回ものづくり日本大賞」を受賞されました！

当センターが「ものづくり日本大賞」に推薦した(株)浪速工作所様が製品・技術開発部門（案件：世界のあらゆる水問題を解決する。新型ろ過装置「Wクリーンろ過装置」の開発。）で優秀賞を受賞され、タバタ(株)様が伝統技術の応用部門（案件：攻めの姿勢で伝統を守る。健康で快適な暮らしの一端を担う機能性畳の開発。）で優秀賞を受賞されました。2月18日（火）、帝国ホテル大阪で表彰式が開催されました。



(株)浪速工作所様



タバタ(株)様

|(株)テクノタイヨー様の製品・技術が「関西ものづくり新選2020」に選定されました！

(株)テクノタイヨー様の「木造住宅の耐震性を高める制振ダンパーの開発と普及」が、「関西ものづくり新選2020」に選定されました。2月6日（木）、リーガロイヤルホテル大阪で選定証交付式が開催されました。



(株)テクノタイヨー様

|ビジネスプランコンテスト「第1回創業ビジコン夢やさかい」（創業部門・第二創業部門）が開催されました。

1月29日（水）、堺商工会議所にて、「第1回創業ビジコン 夢やさかい」が開催されました。このコンテストは、新アイデアとチャレンジ精神を持つ創業者や起業をめざす方等のビジネスプランを公募、受賞者のアイデアをブラッシュアップしビジネスプランの実現化に向け、サポート、ビジネス実現に向けた支援を行い、地域社会、産業の活性化を図るものです。詳細につきましては、下記アドレスをご覧ください。http://www.osaka-shinkin.co.jp/100th/index.html



|堺市産業振興センター コーディネーターのご紹介

堺市産業振興センターでは、中小企業の皆様の経営課題の解決を大手企業や公設試験研究機関の経営豊富なOBがコーディネーターとしてお手伝いします。今回、新たな仲間として加わったコーディネーターをご紹介します。

西川 和予（にしかわ かずよ）

〔専門分野〕 半導体開発・電子機器開発を担当。

製品企画・製品開発・生産管理が専門。

〔資格〕 中小企業診断士 キャリアコンサルタント

〔一言〕 堺のものづくりと女性活躍を応援します。



|堺市中小企業融資制度を見直しました(令和2年4月1日～)

(公財)堺市産業振興センターが保証を行う「堺市中小企業活力強化資金融資(有担保)」を拡充します。

対象 ①自転車又は自転車部分品の製造を行う事業者 ②刃物の製造を行う事業者 ③敷物の製造を行う事業者 ④線香の製造を行う事業者 ⑤昆布の加工を行う事業者 ⑥繊維の染色又はさらしを行う事業者 ※①～⑥の事業者様が、当該製品の製造又は加工のための設備投資を行う場合に対象となります(設備資金向け)

貸付利率 通常年1.4% ⇒ **年1.0%** (▲0.4%)

保証料 堺市中小企業活力強化資金融資(有担保)の保証料は、原則堺市が全額負担しますので、事業者様の保証料負担はありません

※融資金額や融資期間などの条件については、堺市のホームページをご覧ください。堺市産業振興センターや取扱金融機関の窓口までお問合せください。

お問合せ 公益財団法人堺市産業振興センター 金融支援課

TEL 072-255-8484 (融資お客様専用フリーダイヤル) 0120-072-232

堺市ホームページアドレス <http://www.city.sakai.lg.jp/> から「堺市中小企業融資制度」で検索してください

中小企業を
全力応援



公益財団法人

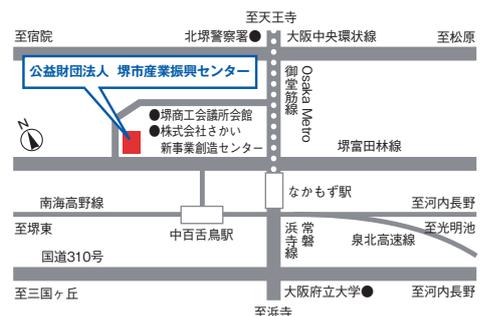
堺市産業振興センター

堺市産業振興センターでは、経営相談や技術開発支援、各種セミナーなど研修に関する事業、堺市内中小企業に対する融資関連事業、地場産業の紹介・製品展示・販路開拓に関する事業、情報誌やホームページ・メールマガジンなどによる産業情報発信、イベントホールや会議室などの貸出事業と多種多様なサービスでビジネスをサポートしています。

〒591-8025 堺市北区長曾根町183-5

TEL.072-255-3311(代) FAX.072-255-5200

<https://www.sakai-ipc.jp/>



●南海高野線中百舌鳥駅より約300m ●Osaka Metro御堂筋線なかもず駅より約300m ※駐車場は、隣接の来客用駐車場(無料)がございますが、できるだけ電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。



豊富な経験と最新技術に裏打ちされた和田精工の高精度なボールベアリング製品。
左下はスクリューネジ

目指しています。

完成品メーカーを目指して 人材教育にも注力

部品メーカーから完成品メーカーへ。その目的のもとに、社内の教育体制も大きく変わったと栢谷宏典常務。製造ラインには産業ロボットを積極的に導入する一方、技術者の資格取得を推進しています。社内に1人しかいなかったプラスチック成形技能士1級の取得者も、今は6人。第三種電気主任技術者の有資格者も増えています。これからのものづくりに大切だと栢谷常務が語る「発想力」はロボットからは生まれてこないのです。

今後について、まずはこれまで外部協力会社に依頼していた大型の射出成形

も引き受けられるように社内で設備を整え、「和田精工なら全てが揃う」といわれる企業にしたいと和田副社長。そして、「さかい健康医療ものづくり研究会」にリーダー的な立場で参画する同社は、介護ロボットを発端に、いつかは自社ブランド製品の立ち上げをと考えています。



検査室で一つひとつを丁寧に検査

て円高が進み、大幅なコスト削減が求められるなか、プラスチックの需要が急速に伸びたのです。

今では、医療機器から化粧品、文房具用品、自動車関連とさまざまな業界の樹脂成形に携わっており、それが同社の大きな強みとなっていると和田一宏副社長。「業界が違っても、樹脂を成形するノウハウも違うんです。それはベアリング製造においても同じ。多種多様な業界とおつきあいをしてきたことで、どのような要望にも応えられる技術を磨いてこれました」と語っています。

プラスチック製品でイメージされるのは大量生産品ですが、同社では写真の現像機や業務用エアコンなどのエンジニアプラスチック成形の小ロット生産にもこだわってきました。そして介護用のロボット機器のOEM生産を行っている同社は、設計もできる完成品メーカーを

和田精工株式会社

代表者名／代表取締役社長 和田 芳弘
本社／堺市堺区北庄町2-3-11
TEL／072-229-1485
設立／1934年創業 1954年設立
資本金／1,000万円
従業員数／60名
事業内容／ラジアル玉軸受・ラジアル玉軸受
を利用した機能部品の製造・販売、プラスチック
成形品の製造・販売
<http://www.wtw.co.jp/>



和田 一宏 取締役副社長



高品質な射出成形品を製造する樹脂成形機

樹脂成形の技を究めて最終製品づくりへ

和田精工株式会社

価格競争に巻き込まれないよう 技術を磨き、新たな業界へ

1934年に自転車部品の製造から始まった和田精工株式会社。戦後はボールベアリングのメーカーとして事業を拡大させていきました。しかしその後、ベアリング業界の競争が激化したことから価格が崩れたため、より付加価値の高い製品づくりを模索。ベアリングに樹脂を巻きつけたプーリーの技術開発に乗り出して成功し、特許を取得しています。1970年

代当時はまだ、樹脂という素材への信頼性が低く、すぐには採用されませんでした。やがて最大手の農機メーカーで導入されると、瞬間に市場は拡大。大手メーカーが次々と参入したことから、価格競争に巻き込まれる前にとプーリーの製造から撤退しました。

こうした事業の変遷から伝わってくるのは、「自社の技術を安く売らない」という確固たる信念であり、新たなフィールドを開拓できるという技術力への自信です。それは戦後間もない1946年から自

社製品に「WTW」というブランド商標をつけてきたことからもうかがえます。

多様な業界に携わったことが 大きな強みに

今ほど一般的でなかった時代から樹脂成形に携わってきたことは、素材の研究開発から始めなければならなかった苦労があったとしても、今日の和田精工の大きな礎を作ることになったといえます。そして、1985年のプラザ合意によっ

堺に活気を、ものづくり  応援マガジン

2020.4

VOL.
55

SAKAIの傑作

安全性と作業効率を 徹底追求した プロ向け作業工具

建設工事や、橋梁工事、造船といった非常に高度な技術、品質が求められる現場で多く採用されている株式会社スーパーツールの作業工具。特長の一つには、堺伝統の打刃物に由来する、鉄を叩き鍛えて不純物を除く鍛造加工が挙げられ、ここに信頼を置いて同社の製品を選ぶユーザーも少なくないようです。

平野量夫社長が「開発指向型企業であることが強み」と語るように、同社では全社員の6%に当たる人員を技術開発部門に配置。常に作業工具の安全性と作業効率を追求した商品開発に取り組んでおり、ここに紹介するクイックワイドモンキレンチと立横兼用吊クランプも今年3月に発表されたばかりの新製品です。

クイックワイドモンキレンチは、ウォームを下に引くことで素早く口開きを調整できる早送り機構にしたもので、作業効率が格段に向上します。安全を確保するために機構で苦労し、開発に1年以上を要しました。立横兼用吊クランプについては、H鋼を横向きにして吊るよう設計されていた従来のクランプを、現場では縦向きに吊る実情があることを知り、縦向きに吊っても安全性が確保されるように改良したものです。「現場の環境が変化すれば、ニーズも変化する」と、常に製品のバージョンアップを図る同社の姿勢が、「スーパーツール」というブランドへの信頼につながっています。

株式会社スーパーツール

代表者名/代表取締役社長 平野 量夫
本社/堺市中区見野山158
TEL/072-236-5521
設立/1918年創業 1960年設立
資本金/1,902,597千円
従業員数/182名
事業内容/作業工具の製造・販売、産業機器の製造・販売
<https://www.supertool.co.jp/>

